



613-001298 Rev.A 100114

ベーシックVPNアクセス・ルーター

CentreCOM® **AR260S V2**

取扱説明書

CentreCOM AR260S V2

取扱説明書

本製品のご使用にあたって

本製品は、医療・原子力・航空・海運・軍事・宇宙産業など人命に関わる場合や高度な安全性・信頼性を必要とするシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んだ使用を意図した設計および製造はされていません。

したがって、これらのシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的または間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任において、このようなシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで使用する場合には、使用環境・条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策・火災延焼対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなど万全を期されるようご注意願います。

安全のために



必ずお守りください

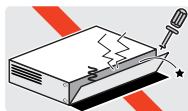


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

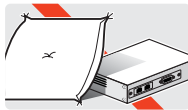
火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電のおそれがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。
本製品に付属の AC アダプターは AC100-120V で動作します。



電圧注意

付属の電源アダプター以外使用しない

火災や感電の原因となります。
必ず、付属の AC アダプターを使用してください。



付属品を使う

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動の時は電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを抜く

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものをのせない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

適切な部品で正しく設置する

取扱説明書に従い、適切な設置部品を用いて正しく設置してください。

指定以外の設置部品の使用や不適切な設置は、火災や感電の原因となります。



正しく設置

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（仕様に定められた環境条件下でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、シュートを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いにはいねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



プラグを
抜く

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらさない



中性洗剤
使用



固く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

はじめに

この度は、「CentreCOM AR260S V2」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

パッケージの確認

最初に梱包箱の中身を確認してください。

- CentreCOM AR260S V2 本体（1 台）
- 専用 AC アダプター（1 個）
- UTP ケーブル（1 本、1m、エンハンスト・カテゴリー 5、ストレートタイプ）
- 結束バンド（1 本）
- 取扱説明書（本書、1 冊）
- 製品仕様書（英文、1 部）
- ソフトウェア使用権許諾契約書（1 部）
- シリアル番号シール（2 枚）
- 製品保証書（1 枚）

本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

マニュアルの構成

本製品のマニュアルは、次の 3 部で構成されています。

各マニュアルをよくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。

• 取扱説明書（本書）

本書は、安全上の注意、各部の名称や働き、設置や配線、プロバイダーへの接続のための設定など、本製品を使用する上で最も基本的なことを説明したマニュアルです。

• リファレンスマニュアル（弊社ホームページに掲載）

本製品が表示する Web 画面の各項目や、項目が取るパラメーターの詳細が記載されています。本書の内容を含む、本製品の機能に関する完全な情報が記載されています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

• 設定例集（弊社ホームページに掲載）

具体的な構成例を図解で示し、構成に関する設定の要点を簡潔に説明したマニュアルです。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

本製品で使用しているソフトウェアについて

本製品で使用しているソフトウェアにつきましては、弊社ホームページの製品ごとのマニュアルページに、それらの著作権表示、使用許諾条件等を掲載しております。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

製品名

本書では、「CentreCOM AR260S V2」を「本製品」と略します。

アイコンについて

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。





アイコン	意味	説明
	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

図 0.0.1 アイコンの意味

目次

安全のために	4
はじめに	6
パッケージの確認	6
マニュアルの構成	6
本製品で使用しているソフトウェアについて	6
製品名	6
アイコンについて	6
1 製品概要	7
1.1 特長	7
オプション	7
1.2 各部の名称と機能	7
2 設置	9
2.1 平らなところに設置する	9
2.2 設置穴による壁面への設置	9
設置手順	9
2.3 19 インチラックへの設置	10
2.4 マグネットによる壁面への設置	10
3 配線	11
準備	11
ONU、ADSL モデム、ケーブルモデムなどの接続	11
コンピューターの接続	12
AC アダプターの接続	12
DC コードの固定	12
カスケード接続	12
4 設定の流れ	12
5 かんたん接続	13
設定の方針	13
設定	14
6 かんたん VPN	19
6.1 2 拠点間の VPN 接続	19
6.2 多拠点間の VPN 接続	27
7 管理者パスワードの変更	31
8 トラブルシューティング	32
A 付録	33
A.1 製品仕様	33
A.2 JavaScript の有効化	34
A.3 コンピューターの設定	34
Windows XP の設定	34
Mac OS X(10.4) の設定	36
A.4 工場出荷時設定への初期化	36
B 保証と修理	37
アライドテレシス株式会社 修理受付窓口	37
保証の制限	37
C ユーザーサポート	37
アライドテレシス株式会社 サポートセンター	37
C.1 サポートに必要な情報	37
一般事項	37
回線について	37
お問い合わせ内容について	37
ネットワーク構成について	37

1 製品概要

1.1 特長

本製品は、VPN (IPsec) 対応の SOHO 向けベーシック VPN アクセス・ルーターです。暗号処理用のハードウェアエンジンを搭載しており、VPN 処理のためのプロセッサの搭載により、高速 VPN 環境を提供します。

- FTTH や ADSL、CATV などのブロードバンド系サービスに対応 (PPPoE、DHCP、固定 IP 設定)
- IPsec (3DES、DES) による VPN
- ステートフル・インスペクション型ファイアウォール
- パケットフィルタリング
- NAT/ENAT、ポートフォワーディング機能
- SNMP クライアント、ログや統計情報の表示、SNMP エージェント
- DHCP サーバー / クライアント機能
- PPPoE マルチセッションに対応 (4 セッション)
- Web ブラウザーによる簡単設定
- DynDNS へのダイナミック DNS 登録
- ブリッジング (IPv6 ブリッジ、PPPoE ブリッジ)
- UPnP 機能
- アプリケーション 検出・遮断 (Winny)

オプション

- マグネット Kit M
- 19 インチ・ラックマウントキット AT-RKMT-J08

1.2 各部の名称と機能



図 1.2.1 前面

① POWER LED

LED	色	状態	表示の内容
POWER	緑	点灯	電源が供給されています。
		消灯	電源が供給されていません。

② SYSTEM LED

LED	色	状態	表示の内容
SYSTEM	橙	点灯	異常が発生しています (起動時の一時的な点灯、点滅は正常です。また、起動時の LED の消灯は、起動の完了を示すものではありません)。
		点滅	フラッシュメモリの読み出し、書き込みを実行しています。
		消灯	正常です。

③ STATUS LED (未サポート)

お客様はご使用になれません。

④ WAN/ETHO LED

LED	色	状態	表示の内容
L/A	緑	点灯	100Mbps でリンクが確立しています。
		点滅	100Mbps でパケットの送受信が行われています。
	橙	点灯	10Mbps でリンクが確立しています。
		点滅	10Mbps でパケットの送受信が行われています。
-	-	消灯	リンクが確立していません。
D/C	緑	点灯	Full Duplex (全二重) です。
		点滅	コリジョンが発生しています。
		消灯	Half Duplex (半二重) です。

⑤ LAN1 ~ 4 LED

WAN/ETHO LED と同様です。

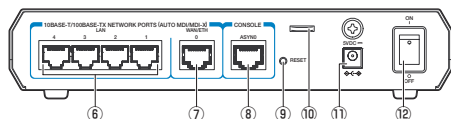


図 1.2.2 背面

⑥ LAN ポート

LAN 側の UTP ポートです。4 つのポートがあり、10BASE-T、100BASE-TX に対応しています。LAN 側の各ポート間の通信はスイッチングにより行われます。通信モードは、オートネゴシエーションが設定されています。MDI/MDI-X 自動切替機能が有効で、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) に関わらず、ストレートまたはクロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

⑦ WAN ポート

WAN 側の UTP ポートです。10BASE-T、100BASE-TX に対応しています。通信モードは、オートネゴシエーションが設定されています (手動設定も可能です)。MDI/MDI-X 自動切替機能が有効で、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) に関わらず、ストレートまたはクロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

⑧ CONSOLE ポート (未サポート)

弊社メンテナンス用のコンソールポートです。お客様はご利用になれません。

⑨ リセットスイッチ

電源スイッチ、SYSTEM LED を組み合わせた操作により、本製品を工場出荷時設定に初期化するスイッチです。

参照 本書「A.4 工場出荷時設定への初期化」(p.36)

⑩ ケーブル固定リング

DC ケーブルを固定するリングです。

⑪ DC ジャック

AC アダプターの DC プラグを接続するジャックです。

⑫ 電源スイッチ

本製品に供給される電源をオン、オフするためのスイッチです。

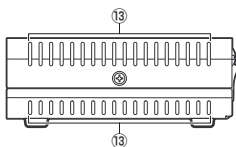


図 1.2.3 側面

⑬ 通気口

換気により、本体内部の熱を逃がすための通気口です。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

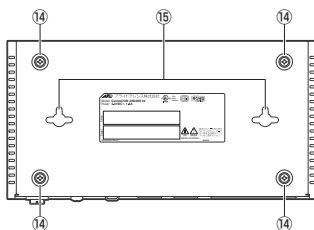


図 1.2.4 底面

⑭ ゴム足

水平面に設置するためのゴム足です。

⑮ 壁面設置穴

本製品を壁面に設置するためのダルマ穴です。

2 設置

本製品は、次の方法による設置ができます。

- ゴム足による水平方向の設置
- 設置穴による壁面への設置

また、オプション（別売）を利用することにより、次の方法による設置ができます。

- ラック-mountキット AT-RKMT-J08 による 19 インチラックへの設置
- マグネット Kit M によるスチール製壁面への設置



弊社指定以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置は、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。



水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほごりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合には直ちに使用を止め、弊社サポートセンターにご連絡ください。



注意

電源部が下向きになる方向で設置する場合には、必ず結束バンドを使用し、DC コードをコード固定リングに固定してください。



注意

製品に関する最新情報は弊社ホームページにて公開しておりますので、設置の際は、付属のマニュアルとあわせてご確認のうえ、適切に設置を行ってください。

本製品の設置を始める前に、必ず「安全のために」をよくお読みください。また、以下の点にもご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 底面を上にして設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 本製品の上にものを置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほごりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。

コネクターの端子にはさわらないでください。静電気を帯びた手（体）でコネクターの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。

2.1 平らなところに設置する

本製品は、ゴム足を取り付けた状態で出荷されますので、そのままデスクの上などの平らなところに設置して使用できます。

2.2 設置穴による壁面への設置

本製品は底面のタルマ穴を使用して、壁面に設置することができます。

本製品には、壁面設置用タッピングスクリーおよびプラスチックアンカーは同梱されていません。使用の際は、お客様にて別途ご用意ください。

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

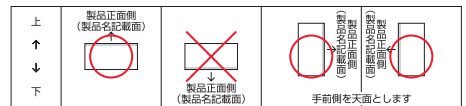


図 2.2.1 タルマ穴を使用する場合の設置方向



警告

必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。



警告

適切なタッピングスクリーを使用してください。不適切なタッピングスクリーを使用した場合、落下などにより重大な事故が発生するおそれがあります。



警告

十分な取り付け強度が得られない壁面に設置しないでください。十分な強度が得られない場合、落下などにより重大な事故が発生するおそれがあります。

設置手順

- 1 電源コンセントの位置や、AC アダプターの DC コードの長さ、UTP ケーブルの引き回し方法、壁面の構造上の強度などを考慮して、本製品の設置場所を決定してください。
- 2 図 2.2.3、図 2.2.5 を参考にして、適切なサイズのタッピングスクリー 2 本を用意してください。
- 3 本製品は図 2.2.1 の方向に取り付けることができます。取り付けの向きを決め、壁面に 2 本のタッピングスクリーをねじ込みます。

- 製品の前面を上向きにして取り付けの場合、水平方向に 140mm の間隔でねじ込んでください。

- 製品の左側面を上向きにして取り付ける場合、垂直方向に140mmの間隔でねじ込んでください。



図 2.2.2 タッピングスクリーの間隔

タッピングスクリーの頭と壁面の間隔が1～2mmとなるようにねじ込んでください。

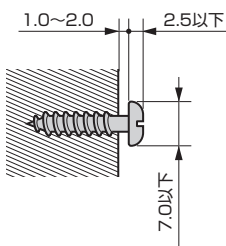


図 2.2.3 頭の飛び出し寸法

- 4 本製品底面のゴム足を取り外してください。
- 5 2つのダルマ穴を、壁面のタッピングスクリーの頭に通し、穴の細い部分までずらして固定してください。

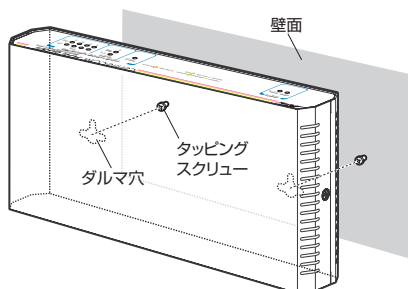


図 2.2.4 ダルマ穴をスクリーの頭に通す

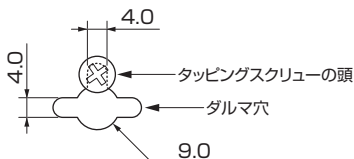


図 2.2.5 細い部分までずらして固定

2.3 19 インチラックへの設置

本製品を19インチラックに取り付ける場合には、オプションの19インチラックマウントキットAT-RKMT-J08をご使用ください。

ラックマウントキットの使用方法は、AT-RKMT-J08の取扱説明書をご参照ください。

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。



図 2.3.1 19インチラックマウントキットを使用する場合の設置方向

警告 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。

警告 本製品をオプションの19インチラックマウントキットを使用して19インチラックに取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生するおそれがあります。

警告 ラックマウントキットの本製品への取り付けは、ラックマウントキットの取扱説明書に従って正しく行ってください。指定以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。

2.4 マグネットによる壁面への設置

本製品のスチール製壁面への設置は、別売のマグネットKit Mを使用し、以下の点に注意して行ってください。

マグネットキットの使用方法は、マグネットKit Mの取扱説明書をご参照ください。

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。



図 2.4.1 マグネットキットを使用する場合の設置方向

警告 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。

警告 マグネットの取り付けおよび機器の設置は、ケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に行ってください。ケガや機器破損の原因となるおそれがあります。



マグネットの取り付けは、マグネットキットの取扱説明書に従って正しく行ってください。指定以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。



設置面の状態によっては、マグネットの十分な強度を得られない場合があります。

3 配線

図 3.0.1 に基本的なネットワーク構成を示します。図 3.0.1 をご覧になり、以下の手順で機器の接続を行ってください。



雷が発生しているときは、本製品の設置や、ケーブルの配線を行わないでください。落雷により感電する恐れがあります。

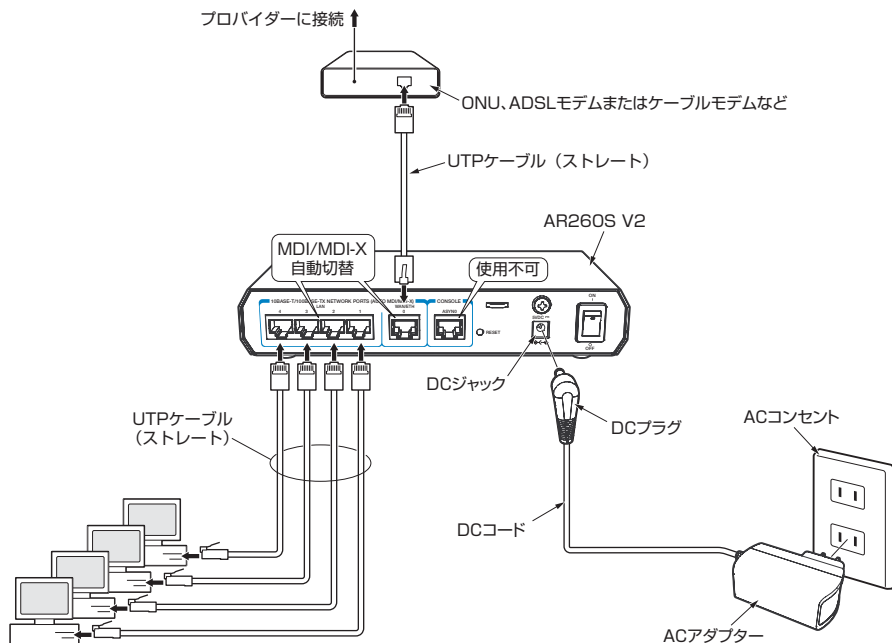


図 3.0.1 基本的なネットワーク構成

準備

- 以下の手順は、回線から ONU (Optical Network Unit)、ADSL モデムまたはケーブルモデムまでの工事が完了しているものとして説明します。
- 本製品に接続するコンピューターで TCP/IP プロトコルが使用できるようにしておきます。

参照 本書「A.3 コンピューターの設定」(p.34)

- 適切な長さの UTP ケーブルを必要な本数だけご用意ください。
 - 100BASE-TX の場合
カテゴリー 5 以上、最長 100m
 - 10BASE-T の場合
カテゴリー 3 以上、最長 100m



本製品の全ポートは MDI/MDI-X 自動切替機能を持つので、ストレートまたはクロスのどちらのタイプの UTP ケーブルを使用してもリンクが確立しますが、本書ではストレートタイプを使用します。

ONU、ADSL モデム、ケーブルモデムなどの接続

- 1 UTP ケーブル先端の爪部分を下側に持ち、WAN ポートに挿入して、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 2 UTP ケーブルのもう一端を、ONU、ADSL モデムまたはケーブルモデムに接続してください。

コンピューターの接続

- 1 UTP ケーブル先端の爪部分を下側に持ち、LAN ポートに挿入して、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 2 UTP ケーブルのもう一端を、コンピューターのネットワークポートに接続してください。
- 3 手順 1、手順 2 を繰り返し、すべてのコンピューターを本製品に接続してください。

AC アダプターの接続

- 1 AC アダプターの DC プラグを、本製品の DC ジャックに接続してください。
- 2 AC アダプターの AC プラグを AC コンセントに接続してください。

DC コードの固定

壁面に設置する場合など、DC プラグが抜け落ちないように、結束バンドで DC コードを固定してください。

- 1 結束バンドをコード固定リングに通してください。
- 2 付属の結束バンドを使い、DC コードをコード固定リングに固定してください。

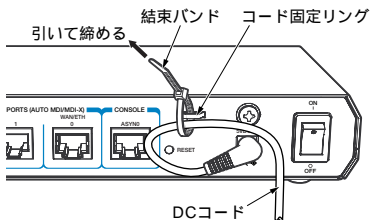


図 3.0.2 DC コードの固定

カスケード接続

本製品には、4台までのコンピューターを接続できますが、更に多くのコンピューターを接続したい場合は、スイッチや HUB をカスケード接続することができます。

- 1 UTPケーブル先端の爪部分を下側に持ち、任意のLAN ポートに挿入して、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 2 UTP ケーブルのもう一端を、カスケード接続するスイッチまたは HUB の任意のポートに接続してください。

4 設定の流れ

「かんたん接続」「かんたん VPN」を使用することにより必要最小限の操作で、2 拠点間の VPN 接続を行うことができます。VPN 接続が完了するまでの作業の流れは下記の通りです。

1 準備 (条件の確認)

VPN 接続を行う場合、以下の接続パターンがあります。

- 固定 IP アドレス同士を接続する
- 固定 IP アドレスと動的 IP アドレスを接続する
- 動的 IP アドレス同士を接続する

固定 IP アドレス同士で接続する、もしくは固定 IP アドレスと動的 IP アドレスを接続する場合には、固定 IP アドレスを利用するルーターの WAN 側 IP アドレスが固定 IP アドレスとなるように、インターネット・サービス・プロバイダーと契約します。

動的 IP アドレス同士を接続する場合には、DynDNS (<http://www.dyndns.com/>) にアカウントを作成しておきます。

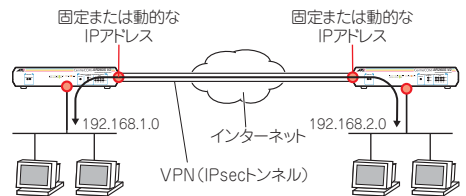


図 4.0.1 VPN 接続可能な IP アドレスの組み合わせ

一方を動的 IP アドレスにする場合、サーバーなどが設置されている側を固定 IP アドレスにし、サーバーにアクセスする側を動的 IP アドレスにします。両方を動的 IP アドレスとする場合は、サーバーなどが設置された側もしくは両方を DynDNS のダイナミック DNS に登録します。

事前共有鍵を決定します。事前共有鍵 (文字列) は、ルーター間の認証の際に使用するもので、接続する 2 拠点に同一の鍵を持たせません。

各拠点の LAN 側 IP アドレスを決定します。拠点の LAN 側 IP アドレスはそれぞれ異なったものでなければなりません。

2 かんたん接続 (p.13)

各拠点で「かんたん接続」を実行し、拠点の LAN をインターネット (プロバイダー) に接続します。

3 かんたん VPN (p.19)

各拠点の LAN を VPN で接続します。

4 管理者パスワードの変更 (p.31)

セキュリティ確保のために、本製品の管理者パスワードを変更します。

5 かんたん接続

「かんたん接続」を使用して、各地点の LAN をインターネットに接続します。図 5.0.1、図 5.0.2 は、個人向けの端末型インターネット接続のネットワークの模式図です。

参照 高度な設定については、弊社ホームページに掲載の「リファレンスマニュアル」「設定例集」をご覧ください。

設定の方針

- ファイアウォールを有効にし、外部からの不正アクセスを遮断しつつ、内部からは自由にインターネットへのアクセスができるようにします。
- ENAT 機能を利用して、LAN 側ネットワークのプライベート IP アドレスを、プロバイダーから与えられたグローバル IP アドレスに変換します。これにより、LAN に接続された複数のコンピューターからインターネットへの同時アクセスが可能となります。

- DHCP サーバ機能を有効にし、LAN に接続されたコンピューターに IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバアドレスの情報を提供します。

- DNSリレー機能を有効にし、LAN側のコンピューターからの DNS リクエストを、プロバイダーの DNS サーバに転送します。前述の DHCP サーバの設定により、LAN 側のコンピューターに対しては、本製品自身の IP アドレスを提供します。

- SNTP を有効にし、本製品の時刻を時刻情報サーバに同期します。

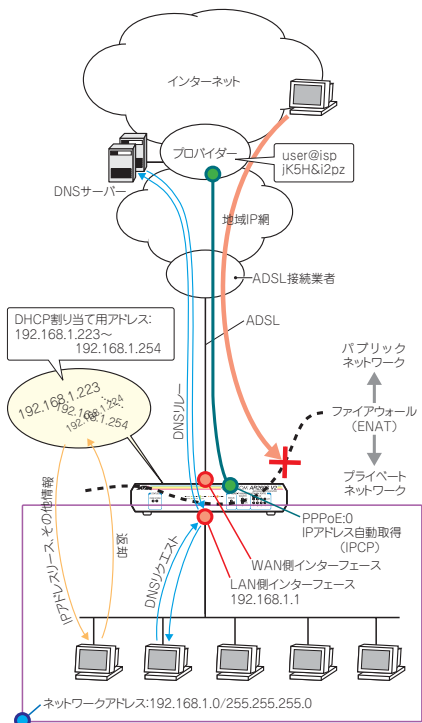


図 5.0.1 PPPoE による接続の模式図

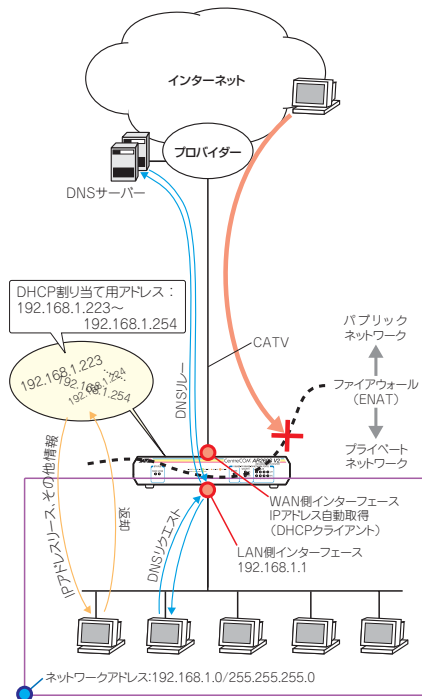


図 5.0.2 Ethernet による接続の模式図

設定

- 1 本製品の電源スイッチをオンにしてください。



電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

- 2 コンピューターを起動してください。



あらかじめ「A.3 コンピューターの設定」(p.34) を実施しておく必要があります。

- 3 Windows 版の Internet Explorer^{*1} を起動し、「http://192.168.1.1/」にアクセスしてください。



図 5.0.3 本製品へのアクセス

- 4 次のダイアログボックスが表示されたら、「ユーザー名」に「manager」、「パスワード」に「friend」と入力し、「OK」をクリックしてください（パスワードは伏せ字で表示されます）。

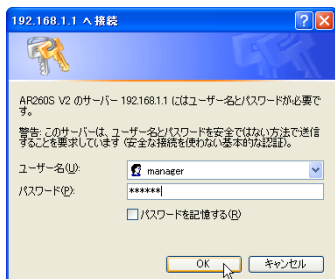


図 5.0.4 本製品へのログイン



ここで使用するユーザー名「manager」、パスワード「friend」は、プロバイダーから提供されるものではありません。

- 5 「かんたん接続」の画面が表示されます。「次へ」をクリックしてください。契約している回線タイプが自動的に選択されます。

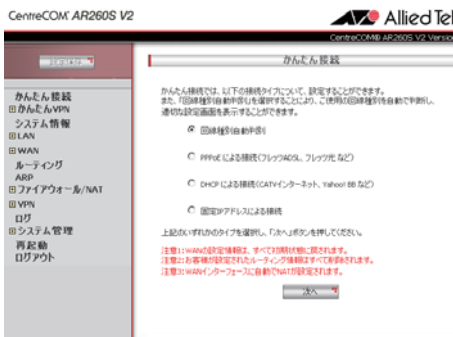


図 5.0.5 セットアップウィザードの開始

- 6 「PPPoE による接続（フレッツ ADSL、B フレッツ）」が選択された場合は、手順 7 に進んでください。

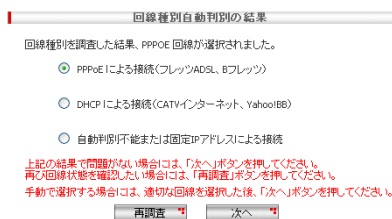


図 5.0.6 回線種別自動判別の結果

「DHCP による接続（CATV インターネット、Yahoo! BB）」が選択された場合は、手順 10 に進んでください。

「自動判別不能または固定 IP アドレスによる接続」が選択された場合は、手順 13 に進んでください。

*1 本製品の設定は、Windows 版の Internet Explorer Ver.8、Ver.7 または Ver.6 をご使用ください。

● PPPoE による接続の設定

7 各項目の入力を終えたら、「次へ」をクリックしてください。

図 5.0.7 PPPoE 接続の設定内容

- 接続名称：この接続設定を識別するための分かりやすい名前（例えばプロバイダー名など）を入力してください。
(例)「my_isp」
- ユーザー名：プロバイダーから指定されたユーザー名を入力してください。
(例)「user@isp」
- パスワード：プロバイダーから指定されたパスワードを入力してください（パスワードは伏せ字で表示されます）。
(例)「jK5H&i2pz」
- DNS オプション：「自動取得」（デフォルト）を選択すると、プロバイダーから自動取得した DNS サーバーアドレスを使用します。「固定設定」を選択すると、次の「プライマリー DNS サーバー」「セカンダリー DNS サーバー」に入力したアドレスを使用します。
- プライマリー DNS サーバー、セカンダリー DNS サーバー：前述の「DNS オプション」を「固定設定」にすると、これらの欄が現れますので、DNS サーバーのアドレスを入力してください。ひとつのみの場合は、「プライマリー DNS サーバー」に入力してください。
- フレッツ・スクウェアの設定：フレッツ・スクウェアまたはサービス情報サイトをご使用になる場合は、利用したいサービスを選択してください。「NTT 東日本」または「NTT 西日本」を選択してください。「NTT 東日本」を選択した場合、ルー

ティングアドレス情報が更新されていないが、最新の情報を確認してください。

ヒント フレッツサービスでサービス情報サイトを選択し、回線からNTT西日本を選択するとフレッツ速度測定サイトをご利用いただけません。NTT 西日本のフレッツ速度測定サイトは PPPoE セッションを新たに必要とするため、かんたん接続設定の後に、フレッツ速度測定サイトの PPP アカウントの設定とルーティングの設定を個別に行う必要があります。また、PPP セッションの合計が3つ以上になる場合は、フレッツ・セッションプラスのご契約が必要です。

8 使用する機能をチェックし、「次へ」をクリックしてください。

図 5.0.8 PPPoE 接続で使用する機能

- UPnP を有効にする：UPnP 機能を有効にします。ルーター配下に UPnP 対応機器を接続する場合にチェックしてください。
- IPv6 プロトコルをブリッジする：LAN と WAN の間で IPv6 パケットをブリッジします。フレッツ・ドットネットまたは、フレッツ・スクウェア v6 を利用する場合はチェックします。
- PPPoE プロトコルをブリッジする：LAN と WAN の間で PPPoE パケットをブリッジします。

注意 NTT 東日本 / 西日本の VoIP アダプタとの動作を確認済みです。なお、VoIP アダプタは一台までしか接続できませんのでご注意ください。

9 現在の設定内容が表示されます。内容を確認し、「適用」をクリックしてください。

接続モード	PPPoE
接続名称	my_isp
ユーザー名	user@isp
DNSオプション	自動取得
プライマリーDNSサーバー	
セカンダリーDNSサーバー	
フレッツサービス	利用しない
利用オプション	
UPnP	使用しない
IPv6 ブリッジ	使用する
PPPoE ブリッジ	使用しない

図 5.0.9 PPPoE 接続の設定内容の確認

手順 16 に進んでください。

● DHCP による接続の設定

10 各項目の入力を終えたら、「次へ」をクリックしてください。

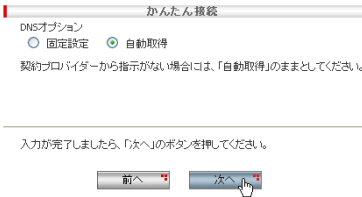


図 5.0.10 DHCP 接続の設定内容

- DNS オプション：「自動取得」（デフォルト）を選択すると、プロバイダーから自動取得した DNS サーバーアドレスを使用します。「固定設定」を選択すると、次の「プライマリ DNS サーバー」「セカンダリ DNS サーバー」に入力したアドレスを使用します。
- プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー：前述の「DNS オプション」を「固定設定」にすると、これらの欄が現れますので、DNS サーバーのアドレスを入力してください。ひとつのみの場合は、「プライマリ DNS サーバー」に入力してください。

11 使用する機能をチェックし、「次へ」をクリックしてください。



図 5.0.11 DHCP 接続で使用する機能

- UPnP を有効にする：UPnP 機能を有効にします。ルーター配下に UPnP 対応機器を接続する場合にチェックしてください。
- IPv6 プロトコルをブリッジする：LAN と WAN の間で IPv6 パケットをブリッジします。
- PPPoE プロトコルをブリッジする：LAN と WAN の間で PPPoE パケットをブリッジします。



VoIP アダプタは一台までしか接続できませんのでご注意ください。

注意

12 現在の設定内容が表示されます。内容を確認し、「適用」をクリックしてください。

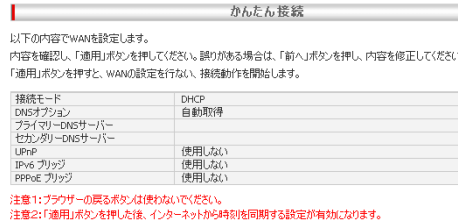
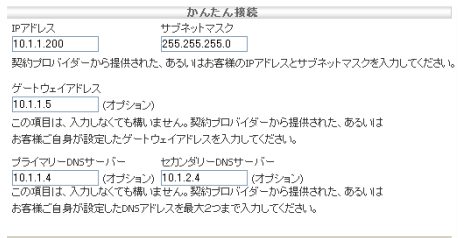


図 5.0.12 DHCP 接続の設定内容の確認

手順 16 に進んでください。

● 固定 IP アドレスによる接続の設定

13 各項目の入力を終えたら、「次へ」をクリックしてください。



入力が完了しましたら、「次へ」のボタンを押してください。



図 5.0.13 固定 IP アドレス接続の設定内容

- IP アドレス：プロバイダーから指定された IP アドレスを入力してください。
(例)「10.1.1.200」
- サブネットマスク：プロバイダーから指定されたサブネットマスクを入力してください。
(例)「255.255.255.0」
- ゲートウェイアドレス：プロバイダーから指定されたゲートウェイアドレスを入力してください。
(例)「10.1.1.5」
- プライマリ DNS サーバー：プロバイダーから指定されたプライマリ DNS サーバーのアドレスを入力してください。DNS サーバーがひとつのみの場合は、「プライマリ DNS サーバー」に入力してください。
- セカンダリ DNS サーバー：プロバイダーから指定されたセカンダリ DNS サーバーのアドレスを入力してください。

14 使用する機能をチェックし、「次へ」をクリックしてください。



図 5.0.14 固定 IP アドレス接続で使用する機能

- UPnP を有効にする: UPnP 機能を有効にします。ルーター配下に UPnP 対応機器を接続する場合にチェックしてください。
- IPv6 プロトコルをブリッジする: LAN と WAN の間で IPv6 パケットをブリッジします。
- PPPoE プロトコルをブリッジする: LAN と WAN の間で PPPoE パケットをブリッジします。



VoIP アダプタは一台までしか接続できませんのでご注意ください。

注意

15 現在の設定内容が表示されます。内容を確認し、「適用」をクリックしてください。



図 5.0.15 固定 IP アドレス接続の設定内容の確認

16 VPN で拠点間を接続する場合、各拠点の LAN 側 IP アドレスは異なったものでなければなりません。LAN 側 IP アドレスを変更する場合は、「LAN 設定」をクリックしてください。変更が不要な場合は、「完了」をクリックし、手順 22 に進んでください。

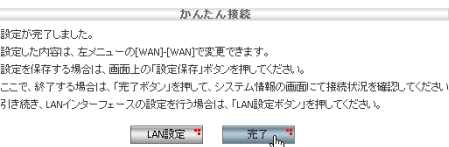
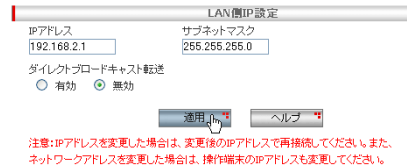


図 5.0.16 かんたん接続の完了

● LAN 側 IP アドレスの変更

17 IP アドレス、サブネットマスクをご希望の値に変更し、「適用」をクリックしてください。以下の例では、「192.168.2.1」に変更しています。IP アドレスの変更により、Web ブラウザーとの接続が切断されます。



現在の設定	
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0

図 5.0.17 LAN 側 IP アドレスの変更



DHCP サーバーによって提供される情報も、この IP アドレスの変更に合わせて変更されます。

ヒント

18 コンピューターを再起動し、変更後の IP アドレスを取得してください。



あらかじめ「A.3 コンピューターの設定」(p.34) を実施しておく必要があります。

19 Internet Explorer を起動し、変更後のアドレスにアクセスしてください。

(例)「http://192.168.2.1/」



図 5.0.18 変更後のアドレスへのアクセス

20 「ユーザー名」に「manager」、「パスワード」に「friend」と入力し、「OK」をクリックしてください (パスワードは伏せ字で表示されます)。

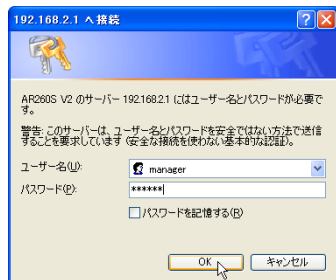


図 5.0.19 再ログイン

21 手順 23 に進み、現在の設定を保存してください。



画面左の「システム情報」をクリックすると、LAN や WAN の現時点の設定状態を確認できます (図 5.0.20 ~ 図 5.0.22)。

●設定の確認

22 現在の設定状態が表示されます。

システム情報	
ファームウェアバージョン	3.3.0 B06 (RELEASE SOFTWARE)
次回起動ファームウェア	3.3.0 B06 (RELEASE SOFTWARE)
LANのMACアドレス	00-09-41-e6-b0-05
WANのMACアドレス	00-09-41-e6-b0-04
システム起動時間	0 week 0 day 0 hour 4 minute 51 second
システム名	Router
システムロケーション	
連絡先	
LAN設定	
LANのIPアドレス	192.168.1.1
LANのサブネットマスク	255.255.255.0
WAN設定	
接続モード	PPPoE
WANのスピード	Autonegotiation : 100M Full Duplex
デフォルトゲートウェイアドレス	pppoe0
pppoe0	
セッション状態	有効
接続状況	接続
IPアドレス	10.1.1.200
サブネットマスク	255.255.255.255
PEERのIPアドレス	10.1.1.1
プライマリ-DNSサーバー	10.1.1.4
セカンダリ-DNSサーバー	10.1.2.4
接続オプション	キーアタイプ
エコースト管理	60
MSS値	1452 (auto)
pppoe1	
セッション状態	無効
接続状況	未接続
IPアドレス	
サブネットマスク	
PEERのIPアドレス	
プライマリ-DNSサーバー	
セカンダリ-DNSサーバー	
接続オプション	キーアタイプ
エコースト管理	60
MSS値	

図 5.0.20 PPPoE の場合

システム情報	
ファームウェアバージョン	3.3.0 B06 (RELEASE SOFTWARE)
次回起動ファームウェア	3.3.0 B06 (RELEASE SOFTWARE)
LANのMACアドレス	00-09-41-e6-b0-05
WANのMACアドレス	00-09-41-e6-b0-04
システム起動時間	0 week 0 day 0 hour 9 minute 40 second
システム名	Router
システムロケーション	
連絡先	
LAN設定	
LANのIPアドレス	192.168.1.1
LANのサブネットマスク	255.255.255.0
WAN設定	
接続モード	DHCP
WANのスピード	Autonegotiation : 100M Full Duplex
接続状況	接続
IPアドレス	10.1.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイアドレス	10.1.1.5
プライマリ-DNSサーバー	10.1.1.4
セカンダリ-DNSサーバー	10.1.2.4

図 5.0.21 DHCP の場合

システム情報	
ファームウェアバージョン	3.3.0 B06 (RELEASE SOFTWARE)
次回起動ファームウェア	3.3.0 B06 (RELEASE SOFTWARE)
LANのMACアドレス	00-09-41-e6-b0-05
WANのMACアドレス	00-09-41-e6-b0-04
システム起動時間	0 week 0 day 0 hour 8 minute 14 second
システム名	Router
システムロケーション	
連絡先	
LAN設定	
LANのIPアドレス	192.168.1.1
LANのサブネットマスク	255.255.255.0
WAN設定	
接続モード	固定IP
WANのスピード	Autonegotiation : 100M Full Duplex
接続状況	接続
IPアドレス	10.1.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイアドレス	10.1.1.5
プライマリ-DNSサーバー	10.1.1.4
セカンダリ-DNSサーバー	10.1.2.4

図 5.0.22 固定 IP アドレスの場合

●設定の保存

23 画面左の「設定保存」ボタンをクリックしてください。設定が保存されると「設定保存」の文字がグレイアウトします。



図 5.0.23 設定の保存

●接続の確認

24 インターネットにアクセスできるか確認してください。コンピューターの画面で Web ブラウザーを起動し、任意の URL を指定します。

25 VPN 接続しない場合は、「7 管理者パスワードの変更」(p.31) に進んでください。

VPN 接続する場合は、各拠点で手順 1～手順 23 を実行し、各拠点のインターネット接続が完了したら、「6 かんたん VPN」に進んでください。

6 かんたん VPN

6.1 2 拠点間の VPN 接続

「かんたん VPN」*2 を使用して、2 拠点を VPN 接続します。設定に入る前に、「4 設定の流れ」(p.12) の「1 準備(条件の確認)」を確認してください。

●固定 IP アドレス同士の VPN 接続

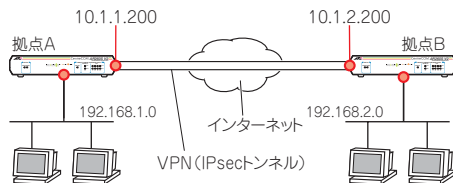


図 6.1.1 固定 IP アドレス同士の VPN 接続

1 画面左の「かんたん VPN」から「1 対 1 接続」をクリックしてください。

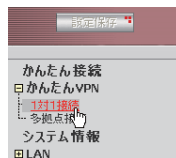


図 6.1.2 1 対 1 接続をクリック

2 拠点 A、B とも「固定 IP アドレスのルーター同士を接続する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

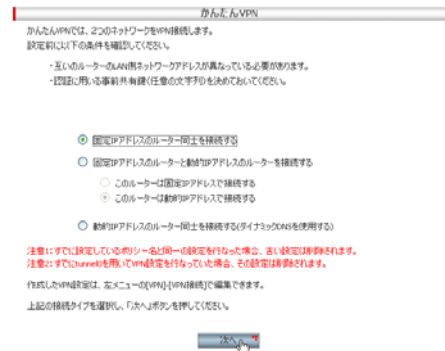


図 6.1.3 VPN の接続条件の選択

*2 「かんたん VPN」では、ひとつの設定（ポリシー）のみが作成可能です。仮想トンネルインターフェースとして常に tunnel0 を使用するため、「かんたん VPN」を再実行すると、前回の設定は上書きされます。

3 拠点 A、B で各項目を入力し、「次へ」をクリックしてください。

かんたんVPN

かんたんVPNでは、以下の状態で動作するルーターを設定します。
固定IPアドレスのルーター同士の接続を設定します。

以下のVPNパラメータを入力してください。

ポリシー名 *
設定を識別するための名前をつけてください。

ローカルネットワーク
ネットワークアドレス サブネットマスク
このルーターのLAN側ネットワークを設定してください。

リモートネットワーク
ネットワークアドレス サブネットマスク
対向ルーターのLAN側ネットワークを設定してください。

リモートゲートウェイ
リモートゲートウェイ
対向ルーターのWAN側IPアドレスを設定してください。

事前共有鍵
事前共有鍵 *
対向のルーターに設定した「事前共有鍵」と同一の鍵を設定してください。

* : 入力可能文字は、英数字文字と ! % & () + , - . (ピリオド) = @ [] ^ _ (下線) { } ~ です。

入力が完了しましたら、「次へ」のボタンを押してください。

図 6.1.4 拠点 A の設定

- ポリシー名：この設定に対して、分かりやすい名前を付けてください。拠点 A、B で別々の名前を付けることもできますが、ここでは同じ名前を使用します。
(例)「vpn_a_b」
- ローカルネットワーク：こちら側ルーターの LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。
(例)「192.168.1.0」「255.255.255.0」
- リモートネットワーク：相手側ルーターの LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。
(例)「192.168.2.0」「255.255.255.0」
- リモートゲートウェイ：相手側ルーターの WAN 側 IP アドレスを入力してください。
(例)「10.1.2.200」
- 事前共有鍵：こちら側、相手側ルーターとも同じ文字列を入力してください（事前共有鍵は伏せ字で表示されます）。
(例)「secret」

4 内容を確認し、「適用」をクリックしてください。

かんたんVPN

かんたんVPNでは、以下の状態で動作するルーターを設定します。
固定IPアドレスのルーター同士の接続を設定します。

以下のVPNパラメータを入力してください。

ポリシー名 *
設定を識別するための名前をつけてください。

ローカルネットワーク
ネットワークアドレス サブネットマスク
このルーターのLAN側ネットワークを設定してください。

リモートネットワーク
ネットワークアドレス サブネットマスク
対向ルーターのLAN側ネットワークを設定してください。

リモートゲートウェイ
リモートゲートウェイ
対向ルーターのWAN側IPアドレスを設定してください。

事前共有鍵
事前共有鍵 *
対向のルーターに設定した「事前共有鍵」と同一の鍵を設定してください。

* : 入力可能文字は、英数字文字と ! % & () + , - . (ピリオド) = @ [] ^ _ (下線) { } ~ です。

入力が完了しましたら、「次へ」のボタンを押してください。

図 6.1.5 拠点 B の設定

かんたんVPN

以下の内容でVPNを設定します。
内容を確認し、「適用」ボタンを押してください。誤りがある場合は、「前へ」ボタンを押し、内容を修正して「適用」ボタンを押すと、VPNの設定を行ない、ネゴシエーションを開始します。

VPNルーターの接続形態	固定IPアドレスのルーター同士を接続する
このルーターのWAN側IPアドレス	このルーターは固定IPアドレスで接続する
ポリシー名	vpn_a_b
ローカルネットワークのネットワークアドレス	192.168.1.0
ローカルネットワークのネットマスク	255.255.255.0
リモートネットワークのネットワークアドレス	192.168.2.0
リモートネットワークのネットマスク	255.255.255.0
リモートゲートウェイ	10.1.2.200
事前共有鍵	****(設定済)
フェーズ1: ローカルID	(不要)
フェーズ1: リモートID	(不要)

注意：ブラウザの戻るボタンは使わないでください。

図 6.1.6 拠点 A の設定確認

かんたんVPN

以下の内容でVPNを設定します。
内容を確認し、「適用」ボタンを押してください。誤りがある場合は、「前へ」ボタンを押し、内容を修正して「適用」ボタンを押すと、VPNの設定を行ない、ネゴシエーションを開始します。

VPNルーターの接続形態	固定IPアドレスのルーター同士を接続する
このルーターのWAN側IPアドレス	このルーターは固定IPアドレスで接続する
ポリシー名	vpn_a_b
ローカルネットワークのネットワークアドレス	192.168.2.0
ローカルネットワークのネットマスク	255.255.255.0
リモートネットワークのネットワークアドレス	192.168.1.0
リモートネットワークのネットマスク	255.255.255.0
リモートゲートウェイ	10.1.1.200
事前共有鍵	****(設定済)
フェーズ1: ローカルID	(不要)
フェーズ1: リモートID	(不要)

注意：ブラウザの戻るボタンは使わないでください。

図 6.1.7 拠点 B の設定確認

5 「完了」をクリックしてください。

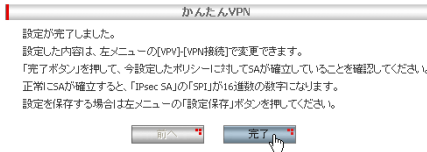


図 6.1.8 かんたん VPN の完了

6 VPN 接続が確立すると、「IPsec SA」の「SPI」が 16 進数となります。表示されない場合は、表示を「更新」してみてください。



図 6.1.9 拠点 A の SA 状態

7 画面左の「設定保存」ボタンをクリックしてください。



図 6.1.11 設定の保存

8 LAN 側のコンピューターから、相手側の社内サーバーなどが参照できることを確認してください。

9 「7 管理者パスワードの変更」(p.31)に進んでください。



図 6.1.10 拠点 B の SA 状態

●一方が動的 IP アドレスの場合の VPN 接続*3

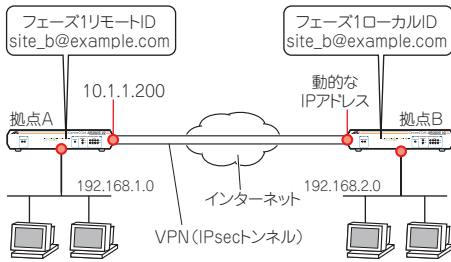


図 6.1.12 一方が動的 IP アドレスの VPN 接続

- 画面左の「かんたん VPN」から「1 対 1 接続」をクリックしてください。

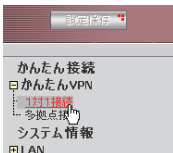


図 6.1.13 1 対 1 接続をクリック

- 「固定 IP アドレスのルーターと動的 IP アドレスのルーターを接続する」を選択してください。
拠点 A では「このルーターは固定 IP アドレスで接続する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

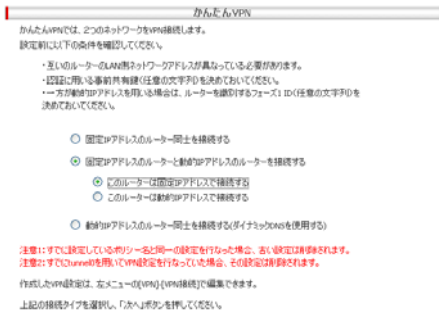


図 6.1.14 拠点 A は固定 IP アドレス

拠点 B では、「このルーターは動的 IP アドレスで接続する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

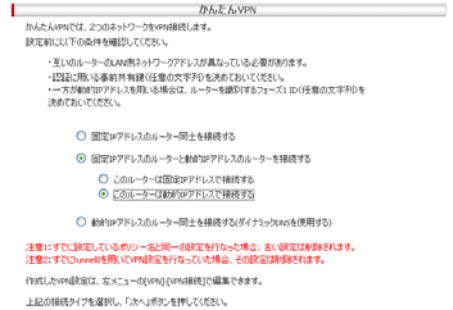


図 6.1.15 拠点 B は動的 IP アドレス

- 拠点 A、B で各項目を入力し、「次へ」をクリックしてください。

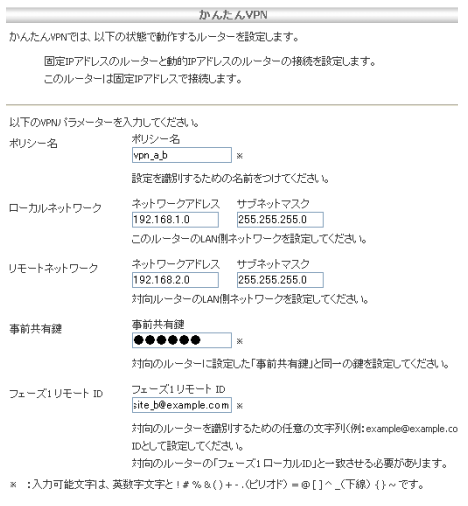


図 6.1.16 拠点 A の設定 (固定 IP アドレス側)

*3 一方が動的 IP アドレスの場合、動的 IP アドレスの側から接続が開始されます。

かんたんVPN

かんたんVPNでは、以下の状態で動作するルーターを設定します。

固定IPアドレスのルーターと動的IPアドレスのルーターの接続を設定します。
このルーターは動的IPアドレスで接続します。

以下のVPNパラメータを入力してください。

ポリシー名 *
設定を識別するための名前をつけてください。

ローカルネットワーク ネットワークアドレス サブネットマスク
このルーターのLAN側ネットワークを設定してください。

リモートネットワーク ネットワークアドレス サブネットマスク
対向ルーターのLAN側ネットワークを設定してください。

リモートゲートウェイ リモートゲートウェイ
対向ルーターのWAN側IPアドレスを設定してください。

事前共有鍵 事前共有鍵 *
対向のルーターに設定した「事前共有鍵」と同一の鍵を設定してください。

フェーズ1ローカルID フェーズ1ローカルID *
このルーターを識別するための任意の文字列(例: example@example.com) IDとして設定してください。
対向のルーターに設定した「フェーズ1リモートID」と一致させる必要があります。

* : 入力可能文字は、英数字文字と ! # % & () + , - . (ピリオド) = @ [] ~ (下線) {} ~ です。

入力が完了したら、「次へ」のボタンを押してください。



図 6.1.17 拠点 B の設定 (動的 IP アドレス側)

両拠点で共通のもの：

- **ポリシー名**：この設定に対して、分かりやすい名前を付けてください。拠点 A、B で別々の名前を付けることもできますが、ここでは同じ名前を使用します。
(例) 「vpn_a_b」
- **ローカルネットワーク**：こちら側ルーターの LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。
(例) 「192.168.1.0」 「255.255.255.0」
- **リモートネットワーク**：相手側ルーターの LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。
(例) 「192.168.2.0」 「255.255.255.0」
- **事前共有鍵**：こちら側、相手側ルーターとも同じ文字列を入力してください。(事前共有鍵は伏せ字で表示されます)。
(例) 「secret」

固定 IP アドレス側 (A) のみに設定するもの：

- **フェーズ1 リモート ID**：
動的 IP アドレス側 (B) の「フェーズ1 ローカル ID」と同じ文字列を設定してください。
(例) 「site_b@example.com」

動的 IP アドレス側 (B) のみに設定するもの：

- **リモートゲートウェイ**：
固定 IP アドレス側ルーターの WAN 側 IP アドレスを入力してください。
(例) 「10.1.1.200」
- **フェーズ1 ローカル ID**：
固定 IP アドレス側ルーターが、動的 IP アドレス側ルーターを識別するための文字列を入力してください。(通常、文字列はメールアドレスやドメイン名 (FQDN) を使用します)。
(例) 「site_b@example.com」

4 内容を確認し、「適用」をクリックしてください。

かんたんVPN

以下の内容でVPNを設定します。
内容を確認し、「適用」ボタンを押してください。誤りがある場合は、「前へ」ボタンを押し、内容を修正して「適用」ボタンを押すと、VPNの設定を行ない、ネゴシエーションを開始します。

VPNルーターの接続形態	固定IPアドレスのルーターと動的IPアドレスのルーターを接続する
このルーターのWAN側IPアドレス	このルーターは固定IPアドレスで接続する
ポリシー名	vpn_a_b
ローカルネットワークのネットワークアドレス	192.168.2.0
ローカルネットワークのネットマスク	255.255.255.0
リモートネットワークのネットワークアドレス	192.168.2.0
リモートネットワークのネットマスク	255.255.255.0
リモートゲートウェイ	10.1.1.200
事前共有鍵	**** (設定済)
フェーズ1ローカルID	(不要)
フェーズ1リモートID	site_b@example.com

注意：ブラウザの戻るボタンは使わないでください。



図 6.1.18 拠点 A の設定確認

かんたんVPN

以下の内容でVPNを設定します。
内容を確認し、「適用」ボタンを押してください。誤りがある場合は、「前へ」ボタンを押し、内容を修正して「適用」ボタンを押すと、VPNの設定を行ない、ネゴシエーションを開始します。

VPNルーターの接続形態	固定IPアドレスのルーターと動的IPアドレスのルーターを接続する
このルーターのWAN側IPアドレス	このルーターは動的IPアドレスで接続する
ポリシー名	vpn_a_b
ローカルネットワークのネットワークアドレス	192.168.2.0
ローカルネットワークのネットマスク	255.255.255.0
リモートネットワークのネットワークアドレス	192.168.1.0
リモートネットワークのネットマスク	255.255.255.0
リモートゲートウェイ	10.1.1.200
事前共有鍵	**** (設定済)
フェーズ1ローカルID	site_b@example.com
フェーズ1リモートID	(不要)

注意：ブラウザの戻るボタンは使わないでください。



図 6.1.19 拠点 B の設定確認

5 「完了」をクリックしてください。

かんたんVPN

設定が完了しました。
設定した内容は、左メニューの「VPN」で変更できます。
「完了」を押して、今設定したポリシーは1つだけSAが確立していることを確認してください。
正常にSAが確立すると、「Psec SA」の「SPI」が16進数の数字になります。
設定を保存する場合は左メニューの「設定保存」ボタンを押してください。

前へ

図 6.1.20 かんたん VPN の完了

6 VPN 接続が確立すると、「IPsec SA」の「SPI」が 16 進数となります。表示されない場合は、表示を「更新」してみてください。

IKE SA						
ポリシー名	ローカル ID	リモート ID	ローカルポート	リモートポート	SA 状態	鍵交換
vpn_a_b	10.1.1.200	site_b@example.com	500	500	完了	Agg

IPsec SA					
ポリシー名	SPI	プロトコル	送信元アドレス	送信先アドレス	トンネル
vpn_a_b	e89c4c5e	ESP	10.1.1.200	10.1.1.200	1406
vpn_a_b	1f703d36	ESP	10.1.1.200	10.1.1.200	1406

図 6.1.21 拠点 A の SA 状態

IKE SA						
ポリシー名	ローカル ID	リモート ID	ローカルポート	リモートポート	SA 状態	鍵交換
vpn_a_b	site_b@example.com	10.1.1.200	500	500	完了	Agg

IPsec SA					
ポリシー名	SPI	プロトコル	送信元アドレス	送信先アドレス	トンネル
vpn_a_b	1f703d36	ESP	10.1.1.200	10.1.1.200	1406
vpn_a_b	e89c4c5e	ESP	10.1.1.200	10.1.1.200	1406

図 6.1.22 拠点 B の SA 状態

7 画面左の「設定保存」ボタンをクリックしてください。



図 6.1.23 設定の保存

8 LAN 側のコンピューターから、相手側の社内サーバーなどが参照できることを確認してください。

9 「7 管理者パスワードの変更」(p.31)に進んでください。

●両方が動的 IP アドレスの場合の VPN 接続

DynDNS を利用して、各拠点のルーターの動的 IP アドレスをドメイン名 (FQDN) に関連付けます。

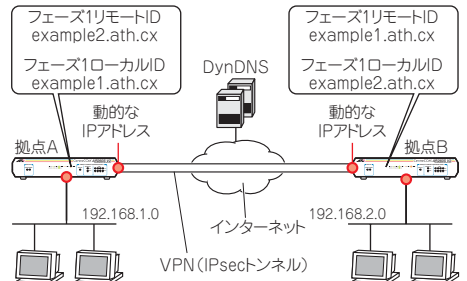


図 6.1.24 両方が動的 IP アドレスの VPN 接続

あらかじめ DynDNS のアカウントを取得しておきます。

1 画面上の「WAN」をクリックし、「ダイナミック DNS」をクリックしてください。

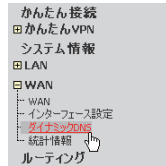


図 6.1.25 ダイナミック DNS をクリック

2 「登録するインターフェイス」にインターネットに接続しているインターフェイス (例: pppoe0) を選択し、あらかじめ作成しておいた DynDNS のアカウントにしたがって「登録する FQDN」、「DynDNS のアカウント名」、「DynDNS のパスワード」を入力し、「適用」を押してください。



図 6.1.26 拠点 A のダイナミック DNS 設定



図 6.1.27 拠点 B のダイナミック DNS 設定

- 3 画面左の「かんたん VPN」から「1 対 1 接続」をクリックしてください。

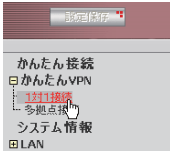


図 6.1.28 1 対 1 接続をクリック

- 4 拠点 A、B とも「動的 IP アドレスのルーター同士を接続する（ダイナミック DNS を使用する）」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

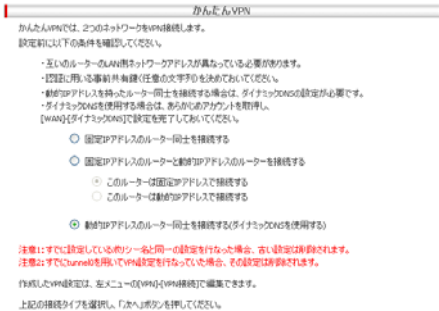


図 6.1.29 拠点 A、B ともダイナミック DNS を使用

- 5 拠点 A、B で各項目を入力し、「次へ」をクリックしてください。

- ポリシー名：この設定に対して、分かりやすい名前を付けてください。拠点 A、B で別々の名前を付けることもできますが、ここでは同じ名前を使用します。
例：「vpn」
- ローカルネットワーク：こちら側ルーターの LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。
例) 「192.168.1.0」「255.255.255.0」
- リモートネットワーク：相手側ルーターの LAN 側 IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。
例) 「192.168.2.0」「255.255.255.0」
- 事前共有鍵：こちら側、相手側ルーターとも同じ文字列を入力してください（事前共有鍵は伏せ字で表示されます）。
例) 「secret」

- フェーズ 1 ローカル ID：こちら側のルーターに設定した FQDN を入力してください。
例) 「example1.ath.cx」
- フェーズ 1 リモート ID：相手側ルーターに設定した FQDN を設定してください。
例) 「example2.ath.cx」



図 6.1.30 拠点 A の設定



図 6.1.31 拠点 B の設定

6 内容を確認し、「適用」をクリックしてください。



図 6.1.32 拠点 A の設定確認



図 6.1.33 拠点 B の設定確認

7 「完了」をクリックしてください。



図 6.1.34 かんたんVPNの完了

8 VPN 接続が確立すると、「IPsec SA」の「SPI」が 16 進数となります。表示されない場合は、表示を「更新」してみてください。



図 6.1.35 拠点 A の SA 状態

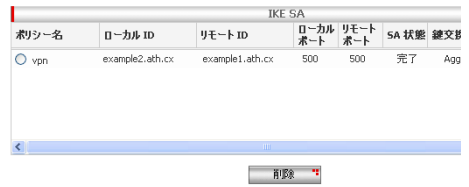


図 6.1.36 拠点 B の SA 状態

9 画面左の「設定保存」ボタンをクリックしてください。



図 6.1.37 設定の保存

10 LAN 側のコンピューターから、相手側の社内サーバーなどが参照できることを確認してください。

11 「7 管理者パスワードの変更」に進んでください。

6.2 多拠点間の VPN 接続

「かんたん VPN」*4 を使用して、Hub&Spoke 型のネットワークを構築します。

この設定により構築される環境は、固定 IP アドレスを割り振ることができる閉域網を用いて IP Sec を行い、拠点間通信および、インターネットへの通信もすべてセンタールーターを経由して行います。このかんたん VPN は、PPP の設定を同時に行いますので、「かんたん接続」の設定は必要ありません。

●センタールーターの設定

最初にどのルーターをセンターに設定するかを決め、センタールーターから順に設定を行います。閉域網の設定はあらかじめ完了しておいてください。

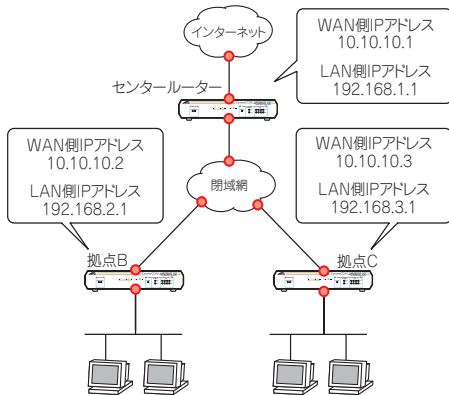


図 6.2.1 多拠点間の VPN 接続

- 画面左の「かんたん VPN」から「多拠点接続」をクリックしてください。

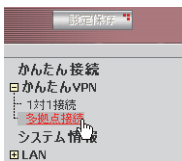


図 6.2.2 多拠点接続を選択

- 「このルーターをセンタールーターに設定する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

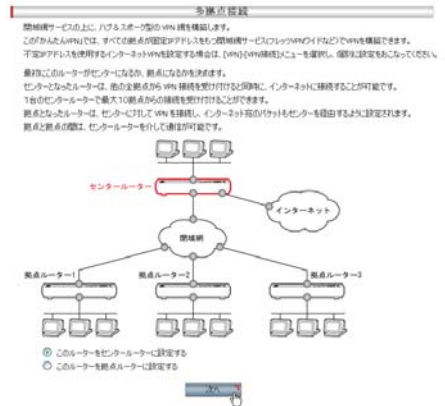


図 6.2.3 センタールーターの選択

- センタールーターの LAN インターフェイスに設定したい IP アドレスを入力し、「次へ」をクリックしてください。この時点では、LAN インターフェイスの IP アドレスは変更されません。

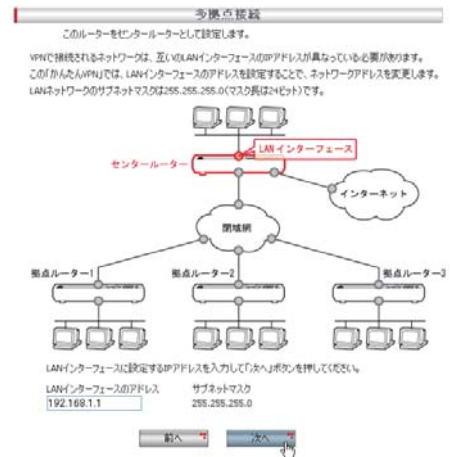


図 6.2.4 センタールーター IP アドレスの設定

*4 「かんたん VPN」を実行すると、既存の設定を上書きします。

4 PPP アカウント情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。

- 上段のユーザー名：閉域網へ接続するためのユーザー名。閉域網サービス業者から指定されたユーザー名を入力してください。
- 上段のパスワード：閉域網へ接続するためのパスワード。閉域網サービス業者から指定されたパスワードを入力してください。
- 下段のユーザー名：インターネットへ接続するためのユーザー名。ISP から指定されたユーザー名を入力してください。インターネット接続を行わない場合は、何も入力しないでください。
- 下段のユーザー名：インターネットへ接続するためのパスワード。ISP から指定されたパスワードを入力してください。インターネット接続を行わない場合は、何も入力しないでください。

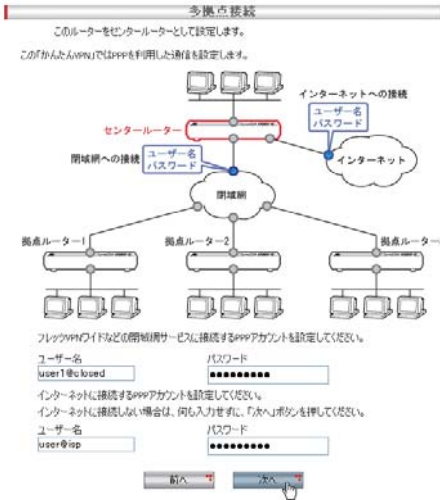


図 6.2.5 ユーザー名とパスワードの設定

5 接続するすべての拠点に対して VPN の設定を行います。入力したら、「次へ」をクリックしてください。センタールーターは、拠点 B および拠点 C からの接続を受け付けるため、その各々について設定を行います。

- 1 台目の拠点ルーター：拠点 B についての設定を行います。
- リモートゲートウェイ：拠点 B の WAN 側 IP アドレスを設定します。
- 事前共有鍵：拠点 B との認証鍵を設定します。
- リモートネットワーク：拠点 B の LAN 側 IP アドレスを設定します。
- 2 台目の拠点ルーター：拠点 C についての設定を行います。
- リモートゲートウェイ：拠点 C の WAN 側 IP アドレスを設定します。
- 事前共有鍵：拠点 C との認証鍵を設定します。
- リモートネットワーク：拠点 C の LAN 側 IP アドレスを設定します。

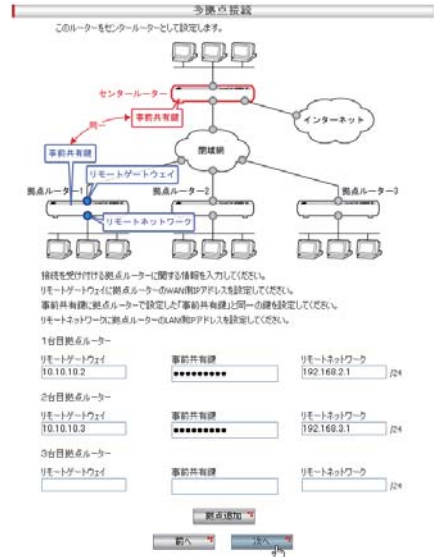


図 6.2.6 接続拠点情報の設定

4 拠点以上との接続が必要な場合は、「拠点追加」ボタンをクリックしてください。



- 6 設定内容を確認し、「適用」をクリックしてください。このとき、手順 3 で LAN 側の IP アドレスを 192.168.1.1 以外に設定すると、設定画面への接続が途切れますが、設定は正常に行われます。パソコンの IP アドレスを再設定し、再度本製品に接続してください。



図 6.2.7 多拠点接続の確認

- 7 「完了」をクリックしてください。

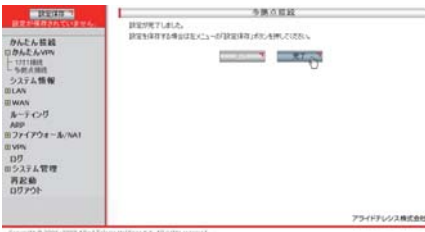


図 6.2.8 多拠点接続の完了

- 8 画面左の「設定保存」ボタンをクリックしてください。



図 6.2.9 設定の保存

●拠点ルーターの設定

- 1 画面左の「かんたん VPN」から「多拠点接続」をクリックしてください。

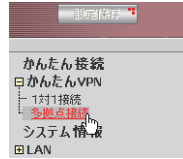


図 6.2.10 多拠点接続を選択

- 2 「このルーターを拠点ルーターに設定する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

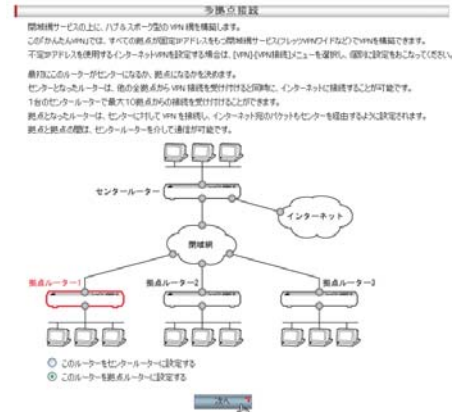


図 6.2.11 拠点ルーターの選択

- 3 拠点ルーターの LAN インターフェースに設定したい IP アドレスを入力し、「次へ」をクリックしてください。

- 拠点 B : 192.168.2.1
- 拠点 C : 192.168.3.1

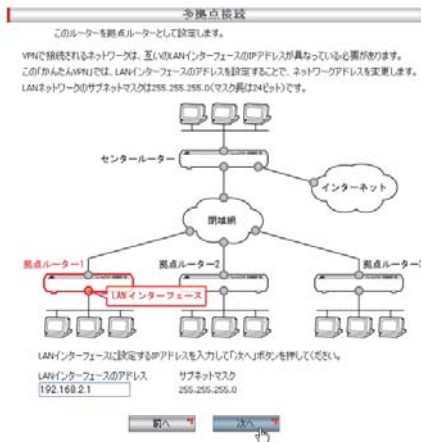


図 6.2.12 拠点ルーター IP アドレスの設定 (拠点 B の場合)

4 閉域網へ接続するための PPP アカウント情報を入力し、「次へ」をクリックしてください。

- ユーザー名：閉域網へ接続するためのユーザー名。閉域網サービス業者から指定されたユーザー名を入力してください。
- パスワード：閉域網へ接続するためのパスワード。閉域網サービス業者から指定されたパスワードを入力してください。

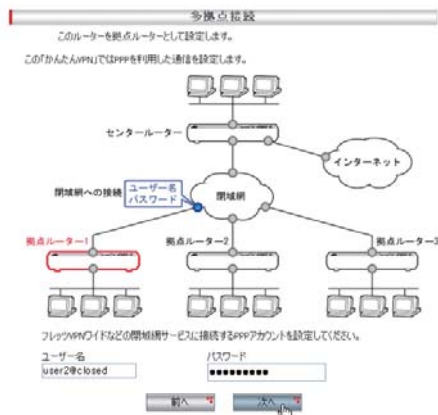


図 6.2.13 ユーザー名とパスワードの設定 (拠点 B の場合)

5 センタールーターへ接続するための VPN 情報を設定します。入力したら、「次へ」をクリックしてください。

- リモートゲートウェイ：センタールーターの WAN 側 IP アドレスを設定します。
- 事前共有鍵：センタールーターに設定した認証鍵を設定します。
- センタールーターの LAN インターフェイスアドレス：センタールーターの LAN 側 IP アドレスを設定します。

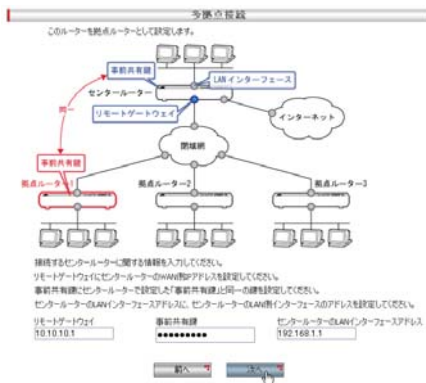


図 6.2.14 VPN 情報の設定

6 設定内容を確認し、「適用」をクリックしてください。ここでは、LAN 側の IP アドレスを 192.168.2.1 (拠点 C の場合は 192.168.3.1) に設定しているため、設定画面への接続が途切れますが、設定は正常に行われます。パソコンの IP アドレスを適切なアドレスに設定し、再度本製品に接続してください。



図 6.2.15 多拠点接続の確認 (拠点 B の場合)

7 「完了」をクリックしてください。



図 6.2.16 多拠点接続の完了

8 画面左の「設定保存」ボタンをクリックしてください。



図 6.2.17 設定の保存

7 管理者パスワードの変更

管理者 (manager) の初期パスワードの変更を行います。



注意

初期パスワードのまま運用しないでください。
セキュリティホールとなる可能性があります。

1 「システム管理」の「設定管理 / パスワード」をクリックしてください。

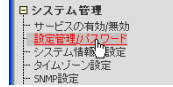


図 7.0.1 設定管理 / パスワード

2 「現在の管理者パスワード」に「friend」、「管理者パスワード」と「パスワードの確認」に新たなパスワードを入力して、「適用」をクリックしてください (パスワードは伏せ字で表示されます)。

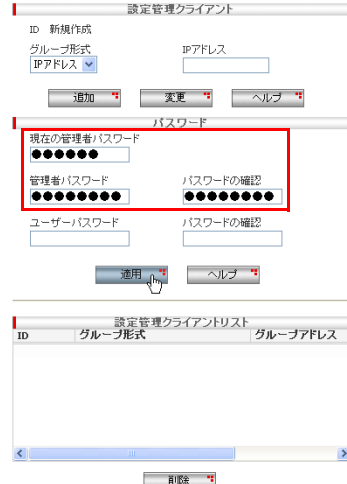


図 7.0.2 管理者のパスワードの変更

3 新しいパスワードを入力してください。

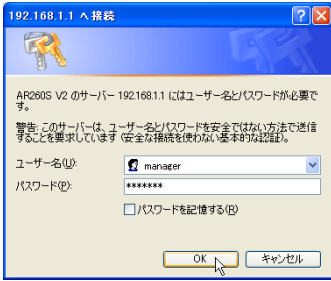


図 7.0.3 新パスワードを入力

4 「設定保存」 ボタンをクリックしてください。



図 7.0.4 設定の保存

●本製品からのログアウト

5 画面左の「ログアウト」をクリックしてください。

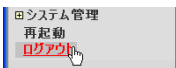


図 7.0.5 本製品からのログアウト

次の画面が表示されたら「適用」をクリックしてください。

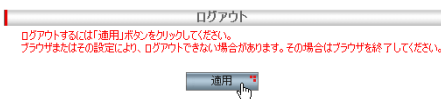


図 7.0.6 適用をクリック

6 「はい」をクリックしてください。

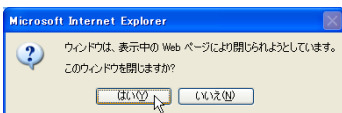


図 7.0.7 ログアウトの確認

8 トラブルシューティング

設定画面がうまく表示されません

- Web ブラウザーとして Internet Explorer Ver.8、Ver.7 または Ver.6 を使用してください。
- 「A.2 JavaScript の有効化」(p.34) をご覧になり Internet Explorer の JavaScript 機能を有効にしてください (通常、初期設定では有効になっています)。

POWER LED は点灯するが、正しく動作しません

- 電源をオフにした後、すぐにオンにしていますか？ 電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

リセットスイッチを押しても再起動しません

- 本製品は、リセットスイッチを押しても再起動しません。スイッチによる再起動は、電源スイッチをオフにした後、しばらく間をあけてから、電源スイッチをオンにしてください。

うまく VPN 接続できません

- うまく VPN 接続できない原因の多くは、入力誤りによるものです。各拠点のローカルネットワークアドレス、リモートネットワークアドレス、サブネットマスク、リモートゲートウェイ、事前共有鍵、フェーズ 1 ローカル ID、フェーズ 1 リモート ID を確認してください。

A 付録

A.1 製品仕様

表 A.1.1 ハードウェア仕様

準拠規格	IEEE 802.3 10BASE-T, IEEE 802.3u 100BASE-TX, IEEE 802.3x Flow Control
電源部	定格入力電圧 AC100-120V 定格入力電流 0.5A 入力電圧範囲 AC90-132V 定格周波数 50/60Hz 最大入力電流 0.12A (実測値) 平均消費電力 5.3W (最大 6.2W) 平均発熱量 19kJ/h (最大 22kJ/h)
環境条件	動作時温度 0 ~ 40℃ 動作時湿度 80% 以下 (結露なきこと) 保管時温度 -20 ~ 60℃ 保管時湿度 95% 以下 (結露なきこと)
外形寸法	210 (W) × 107 (D) × 38 (H) mm (突起部含まず)
質量	690g (本体のみ)
ポート	WAN 10BASE-T/100BASE-TX × 1 (オートネゴシエーション / 手動設定 (10/100, Full/Half), MDI/MDI-X 自動切替) LAN 10BASE-T/100BASE-TX × 4 (オートネゴシエーション, MDI/MDI-X 自動切替) CONSOLE 弊社メインテナンス用 (お客様はご使用になれません)
スイッチ部 (LAN)	スイッチング方式 スタア&フォワード パケットバッファ 128KByte MAC アドレス登録数 1K (最大) MAC アドレス保持時間 約 300 秒
CPU	PowerPC 266MHz
メモリー容量	メインメモリー 64MByte フラッシュメモリー 16MByte
適合規格	EMI 規格 VCCI クラス B 安全規格 UL60950-1 CSA-C22.2 No.60950-1 電気通信事業法に基づく技術基準 JATE D07-0240001

表 A.1.2 ソフトウェア仕様

ルーティングプロトコル	IPv4
ルーティング方式	スタティック
WAN サービス	ADSL, CATV, FTTH などの各種のプロードバンド回線サービス
機能	PPPoE (4 セッション) ブリッジング (IPv6 ブリッジ, PPPoE ブリッジ) スタティック NAT, ダイナミック NAT, ENAT, インターフェース ENAT, ポートフォワーディング, パススルー (IPsec (ESP, IKE) /L2TP/PPTP (GRE)), UPnP DHCP (サーバー, クライアント), DNS リレー ファイアウォール (ステートフルインスペクション, アクセス制御 (パケットフィルタ), URL フィルター, DoS 攻撃検出, アプリケーション 検出・遮断 (Winny)) VPN (IPsec (IKE/ISAKMP), 暗号 (3DES, DES), 認証 (SHA-1, MD5), ISAKMP キーブライブ (DPD/HeartBeat), NAT-Traversal, 内部 NAT) ダイナミック DNS (DynDNS)
管理機能	Web ブラウザーによる設定 (「かんたん接続」「かんたん VPN」「詳細設定」ほか) PING, SNMP クライアント, SNMP エージェント, 工場出荷時設定への初期化, 設定のバックアップと復元, ファームウェアの更新 統計情報 (LAN (ポート単位), WAN, PPPoE, ファイアウォール, NAT, VPN) ログ (Web ブラウザーへの表示および SYSLOG サーバーへの送信, 出力項目: IP, DHCP, PPP, VPN, ETH, NAT, ファイアウォール, ブリッジ, システム, アプリケーション)
推奨クライアントコンピュータ接続数	20 台
スタティックルートの最大登録数	30 件
推奨同時 VPN トンネル数	10

A.2 JavaScriptの有効化

Internet Explorer 以下に以下の設定を施すと、本製品にアクセスするときのみ JavaScript を有効にすることができます（他のセキュリティ設定に影響を与えません）。Internet Explorer Ver.7 の例を示しますが、Ver.8、Ver.6 でも同様です。

- 1 Internet Explorer のメニューから「ツール」→「インターネットオプション」をクリックしてください。
- 2 「セキュリティ」タブをクリックしてください。「信頼済みサイト」を選択しておき、「サイト」ボタンをクリックしてください。

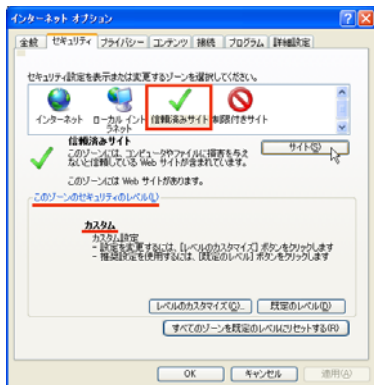


図 A.2.1 インターネットオプション

- 3 「http://（本製品の LAN 側 IP アドレス）/」（デフォルトの場合「http://192.168.1.1/」）を入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https) を必要とする」のチェックを外してから、「追加」ボタンをクリックしてください。「Web サイト」欄に「http://192.168.1.1/」が表示されたら、「閉じる」ボタンをクリックしてください。

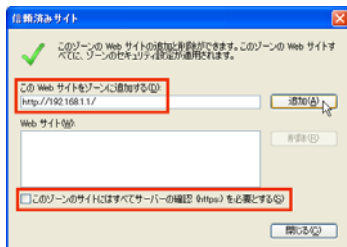


図 A.2.2 信頼済みサイトの登録

- 4 「インターネットオプション」ダイアログボックス（図 A.2.1）の「このゾーンのセキュリティレベル」が「カスタム」になっている場合は、「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックして、「アクティブスクリプト」が「有効にする」になっていることを確認してください。

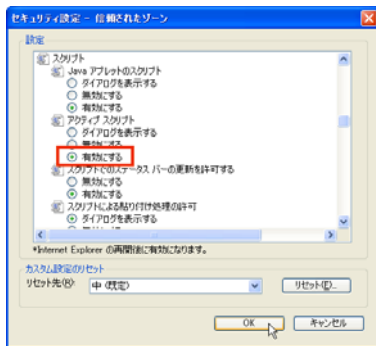


図 A.2.3 アクティブスクリプトは有効

- 5 「インターネットオプション」ダイアログボックスの「OK」ボタンをクリックしてください。「インターネットオプション」ダイアログボックスが閉じます。
- 6 Internet Explorer を再起動してください。本製品に対してアクセスするときのみ、JavaScript が有効になります。

A.3 コンピューターの設定

本製品を利用したインターネット接続ができるように、お使いのコンピューターのネットワーク（TCP/IP）設定を行います。ネットワーク設定は接続するすべてのコンピューターで行う必要があります。また、あらかじめネットワークアダプターの設定がされている必要があります。

Windows XP の設定

- 1 「コントロールパネル（クラシック表示）」の「ネットワーク接続」を開き、「ローカル エリア接続」をダブルクリックしてください。

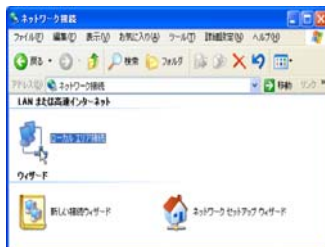


図 A.3.1 ネットワーク接続

2 「ローカル エリア接続の状態」ダイアログボックスで「プロパティ」をクリックしてください。



図 A.3.2 ローカルエリア接続の状態

3 「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログボックスのリストの中から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。

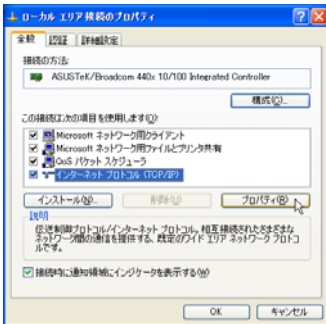


図 A.3.3 ローカルエリア接続のプロパティ

4 「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ダイアログボックスで「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、「詳細設定」をクリックしてください。

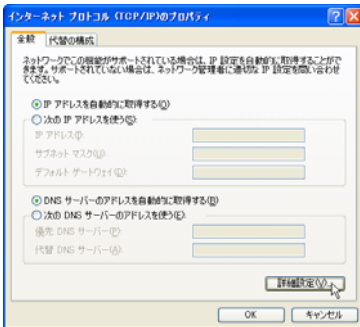


図 A.3.4 IP アドレスの設定

5 「TCP/IP 詳細設定」ダイアログボックスで「DNS」タブを選択し、下部の「この接続アドレスを DNS に登録する」のチェックを外してください。

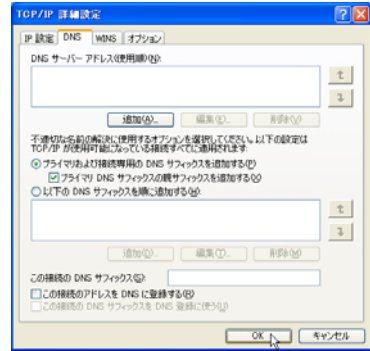



図 A.3.5 DNS の設定

 プロバイダーからドメイン名も指定されている場合「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、「追加」ボタンをクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

6 「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じ、コンピュータを再起動してください。

Mac OS X (10.4) の設定

- 1 「システム環境設定」を起動して「ネットワーク」をクリックしてください。
- 2 「内蔵 Ethernet」を選択し、「設定...」をクリックしてください。

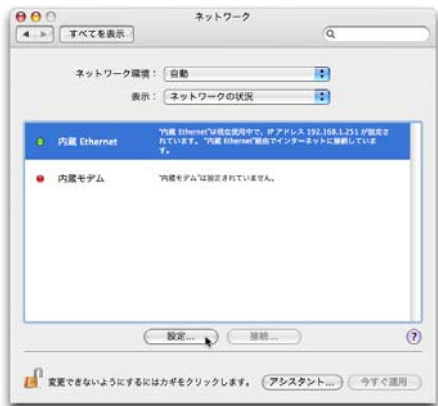



図 A.3.6 内蔵 Ethernet の選択

- 3 「TCP/IP」の「IPv4 を設定」から「DHCP サーバを参照」を選択して、「今すぐ適用」をクリックしてください。



図 A.3.7 内蔵 Ethernet の設定

-  プロバイダーからドメイン名も指定されている場合「検索ドメイン」に指定されたドメイン名を入力してください。

A.4 工場出荷時設定への初期化

本製品の設定画面を表示し、「システム管理」→「システムの設定」→「デフォルト設定」の順にクリックして、以後表示されるメッセージにしたがってください。

または、電源スイッチとリセットスイッチを以下の手順で操作してください。

- 1 本製品の電源スイッチをオフにして、しばらく待ってください。
- 2 リセットスイッチを押しながら、本製品の電源スイッチをオンにし、SYSTEM LED が短く 3 回点滅するまで、リセットスイッチを押し続けてください。



スイッチによる工場出荷時設定への初期化は、「システム管理」→「サービスの有効 / 無効」で禁止することができます。

B 保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

Tel : ☎ 0120-860-332
携帯電話 / PHS からは : 045-476-6218
月～金曜日 (祝・祭日を除く)
9:00～12:00、13:00～17:00

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害 (人の生命、身体に対する被害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない) につきましても、弊社はその責を一切負わないものとします。

C ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-tesis.co.jp/support/info/>
Tel : ☎ 0120-860-772
携帯電話 / PHS からは : 045-476-6203
月～金曜日 (祝・祭日を除く)
9:00～12:00、13:00～17:00

C.1 サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合により弊社からの連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

一般事項

すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。サポート ID 番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略させていただきます。

- サポートの依頼日
- お客様の会社名、ご担当者名
- ご連絡先
- ご購入先

製品について

- 製品名 (AR260S V2)、製品のシリアル番号 (S/N)、製品リビジョンコード (Rev) をお知らせください。製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品底面のシリアル番号シールに記入されています。

(例)  S/N 084774490805087 Rev. 01

- ファームウェアバージョンをお知らせください。ファームウェアバージョンは、Web ブラウザーで本製品の設定画面にアクセスし、「システム情報」をクリックすると表示されます。
(例) V.1.0.0 B14

回線について

- ご契約のインターネットサービスプロバイダー (ISP) 名またはケーブルテレビ (CATV) 名をお知らせください。

お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況でまたどのような頻度で発生するのかをできる限り具体的に (再現できるように) お知らせください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容をお送りください。

ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をあわせてお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

☆☆☆

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社 (弊社) の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2010 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOM はアライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Macintosh、Mac OS は、米国 Apple Computer Inc. の登録商標です。

初期に参照している NTP サーバーは、インターネットマルチフィード株式会社のもので

<http://www.jst.mfeed.ad.jp/>

その他、この文書に掲載しているソフトウェア、周辺機器、サービスの名称などは、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただけますようお願いいたします。

輸出管理と国外使用について

お客様は、弊社販売製品を日本国外への持ち出または「外国為替及び外国貿易法」にいう非居住者へ提供する場合、「外国為替及び外国貿易法」を含む日本政府および外国政府の輸出関連法規を厳密に遵守することに同意し、必要とされるすべての手続きをお客様の責任と費用で行うことといたします。

弊社販売製品は日本国内仕様であり、日本国外においては製品保証および品質保証の対象外になり、製品サポートおよび修理など一切のサービスが受けられません。

マニュアルバージョン

2010年1月 Rev.A 初版 (F/W Ver.3.3.0)

